

住宅街の一軒家を利用したサブセンター事業(鎌倉市)

地域包括支援センター

- ・常駐職員の派遣(月・水・金)
- ・講座の企画・運営
- ・相談の共有



サロンより道

リハビリ教室

栄養講座

住民の語らいの場

認知症予防講座

介護相談の受付

地域の方のサークル活動

健康講座

ボランティア・民生委員

- ・講座のチラシの掲示や配布の協力
- ・貸館(サークル活動)管理(火・木)

法人

- ・PT・栄養士の派遣

地域住民

- ・集いの場
- ・相談の場
- ・講座への参加

丘陵地にある地区40年以上たつ住宅地。包括支援センターには丘を降りてこなければならぬ為、身近に相談が出来る場として、「サロンより道」にサブセンター機能を付加する。

開設時間: 月曜日～金曜日 10:30～15:30 祝日・年末年始は休み

月・水・金・・・包括職員(専属)が常駐。相談受付・来客対応・講座の企画・運営を行っている。

火・木・・・貸館利用。麻雀・お茶・刺繍のサークルが活動。管理はボランティアが行っている。

地域包括ケアシステム構築に向けた取組事例（様式）

①区町村名	鎌倉市
②人口（※1）	177,895人（ ）
③高齢化率（※1） （65歳以上、75歳以上それぞれについて記載）	65歳以上 28.55%（ ） 75歳以上 14.50%
④取組の概要	高齢者サロンの一角に地域包括支援センターのサブセンター（立寄所）を設置し、地域の方は気軽に立ち寄れる場所として、また介護予防や健康増進のための各種講座の開催するなど、地域包括ケアシステムの構築に向けた活動拠点を整備した。
⑤取組の特徴	サロンに併設されていることにより、アウトリーチ、早期の段階におけるニーズ把握が可能となる。地域の住民にとっても、身近な地域にあることでより相談しやすい状況となる。また、地域包括支援センターと密に連携を取ることで、把握したニーズを専門家に早期につなぎ、包括的支援を行える効果がある。
⑥開始年度	平成24年度
⑦取組のこれまでの経緯	今泉台地区は、市内の他地域よりも急速に高齢化が進み、早急な対応が求められているため、同地区を担当する地域包括支援センターふれあいの泉の運営法人が平成23年度に高齢者サロン「より道」を開設した。その翌年、サロンの一角にサブセンター（立寄所）を設置し、地域包括支援センターの機能強化に取り組んでいる。
⑧主な利用者と人数（H24/12/19～H25/3/31）	主な利用者・・・高齢者・民生委員・地域住民。 来所者・・・96名。（除：講座参加者）うち相談者4名。 ※講座参加者 感染症予防：14名、認知症予防（3回）：36名、 栄養講座（2回）：16名、リハビリ教室（14回）：222名
⑨取組の実施主体及び関連する団体・組織	社会福祉法人 麗寿会
⑩市区町村の関与（支援等）（※2）	神奈川県地域支え合い体制づくり事業費補助金を活用した財政的支援（平成24年度200万円）
⑪国・都道府県の関与（支援等）（※3）	同上
⑫取組の課題	現在、地域包括支援センター所属の職員1名（専門職）を配置しているが、本センター業務との兼務であり、マンパワー不足は否めない。また、共助の点から、地域のリーダーを育成する必要性を感じている。
⑬今後の取組予定	サブセンターとして、様々な機能を兼ね備えることが出来、総合相談機能以外にも、「認知症サポーター養成講座」や「介護予防教室・家族介護教室」など地域のニーズに即したコミュニティワークを行う予定である。実践の結果が広域的・多角的に広がり、本来の地域福祉実践である、高齢者を中心としつつ、障害児や児童も含めた地域住民全てを対象とした、地域包括ケアシステムの拠点として実践していきたい。
⑭その他	

⑮担当部署及び連絡先	鎌倉市 高齢者いきいき課 介護保険担当 電話：0467-61-3950
------------	--

- ※1 一部地域に限定した実施の場合は、当該地域の人口・高齢化率を（ ）内に記載してください。
- ※2 市町村から財政的支援が行われている場合には予算額等を含めて記載ください。
- ※3 国や都道府県から財政的支援を受けている場合は、補助金や交付金等の名称、額等を含めて記載ください。